

国立大学法人東京農工大学 先端産学連携研究推進センター URA整備事業 4年目の活動について



概要

東京農工大学のURAシステムは順調に発展してきた。平成25年度には研究戦略センターと産官学連携・知的財産センターの統合により先端産学連携研究推進センターを設置し、平成26年度には農工大TLOの技術移転事業を継承した。本学は中規模研究大学の特色を活かし、URAを部局に配置せず本部に置き、全学的な視点で研究推進活動に取り組んでいる。4年目を迎えたこれまでの活動と今後の活動の展望、特に国際的な展開を紹介する。

東京農工大学の概要と研究力強化方針



東京農工大学の規模 (H26年度)

学生数 5,744名
(うち、留学生325名、女子学生1,622名)

常勤職員 641名(うち女性119名)

所属	学生数
工学府	1,029名
農学府	408名
生物システム応用科学府	224名
連合農学研究科	195名
大学院生計	1,856名
農学部	1,397名
工学部	2,491名
学部生計	3,888名

職種別	職員数
教員等	423名
事務職員	154名
技術職員, URA	57名, 7名



学生のおよそ1/3が大学院生
研究基軸、大学院基軸大学として研究
拠点、高度技術者養成を目指す！

教員組織は大学院工学研究院及び大学院
農学研究院(研究組織)として、教育組
織とは別に、単独の部局として設置。

東京農工大学の使命と学長ビジョン

第2期中期目標 | ビジョン「研究大学としての地位の確立」(平成22~27年度)

ミッションの再定義

農学・工学ともに、国際社会で指導的な役割を担う高度な専門職業人材、高い研究能力を有する先導的な人材の育成及び、我が国の産業を支える実践的な研究等の取り組みの一層の推進によるイノベーション創出が再定義された。

農学 イネ新品種開発、ゲノム情報解析をはじめ農学分野において国際的に高い評価
工学 エネルギー材料、スマートモビリティ、バイオセンシングの研究論文の量又は質が世界的水準



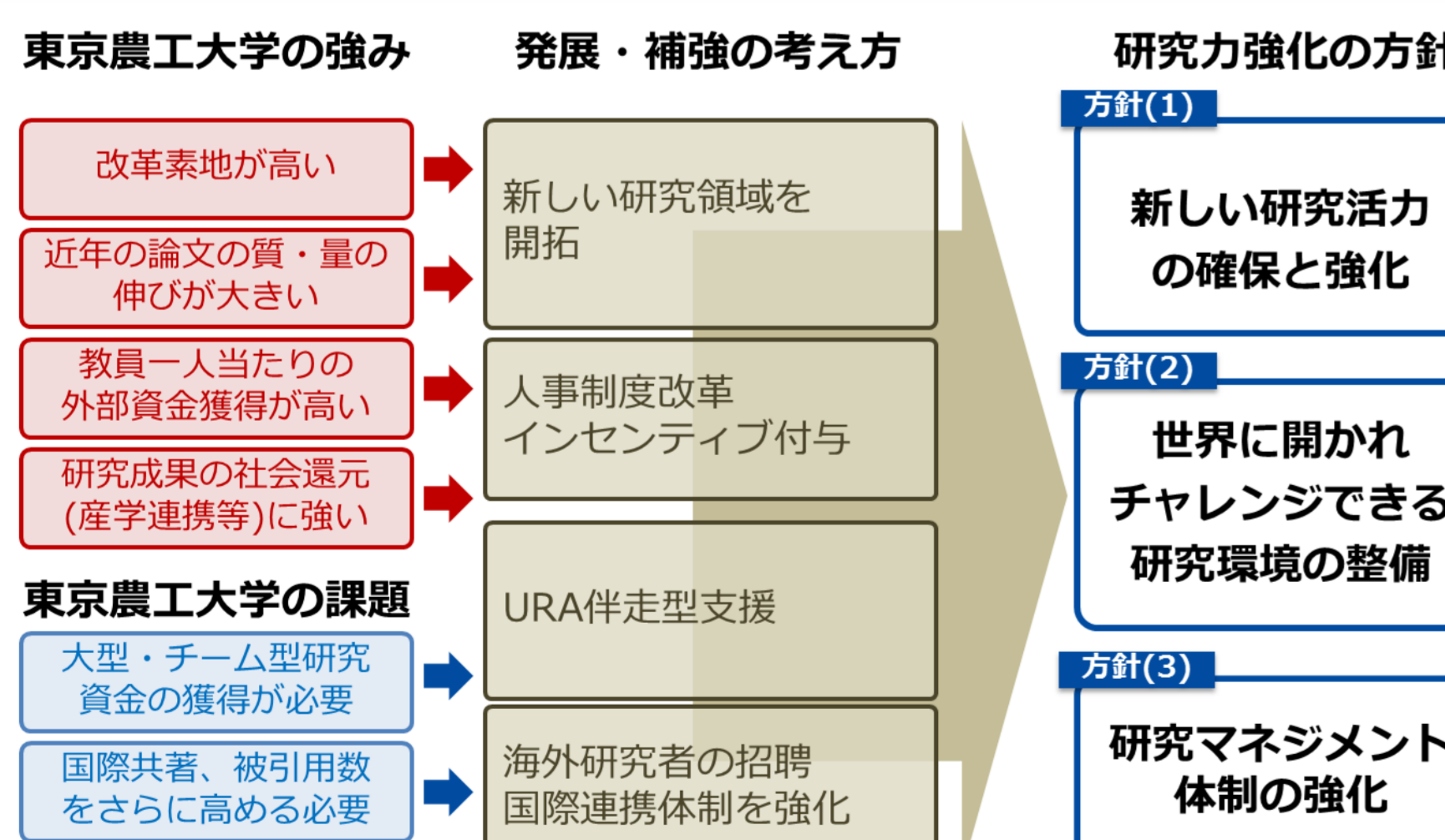
平成26年：創基140年

第3期中期目標 | ビジョン「世界が認知する研究大学へ」(平成28~33年度)

大学改革・研究力強化方針 | ~MORE TUAT 150~

世界に向けて日本を牽引する大学としての役割を果たす
◆日本の産業界を国際社会に向けて牽引 ◆世界と競える先端研究力の強化
◆国際社会との対話力を持った教育研究の推進 ◆高度なイノベーションリーダーの養成

強み・弱みや課題等の状況分析を踏まえた研究力強化の方針

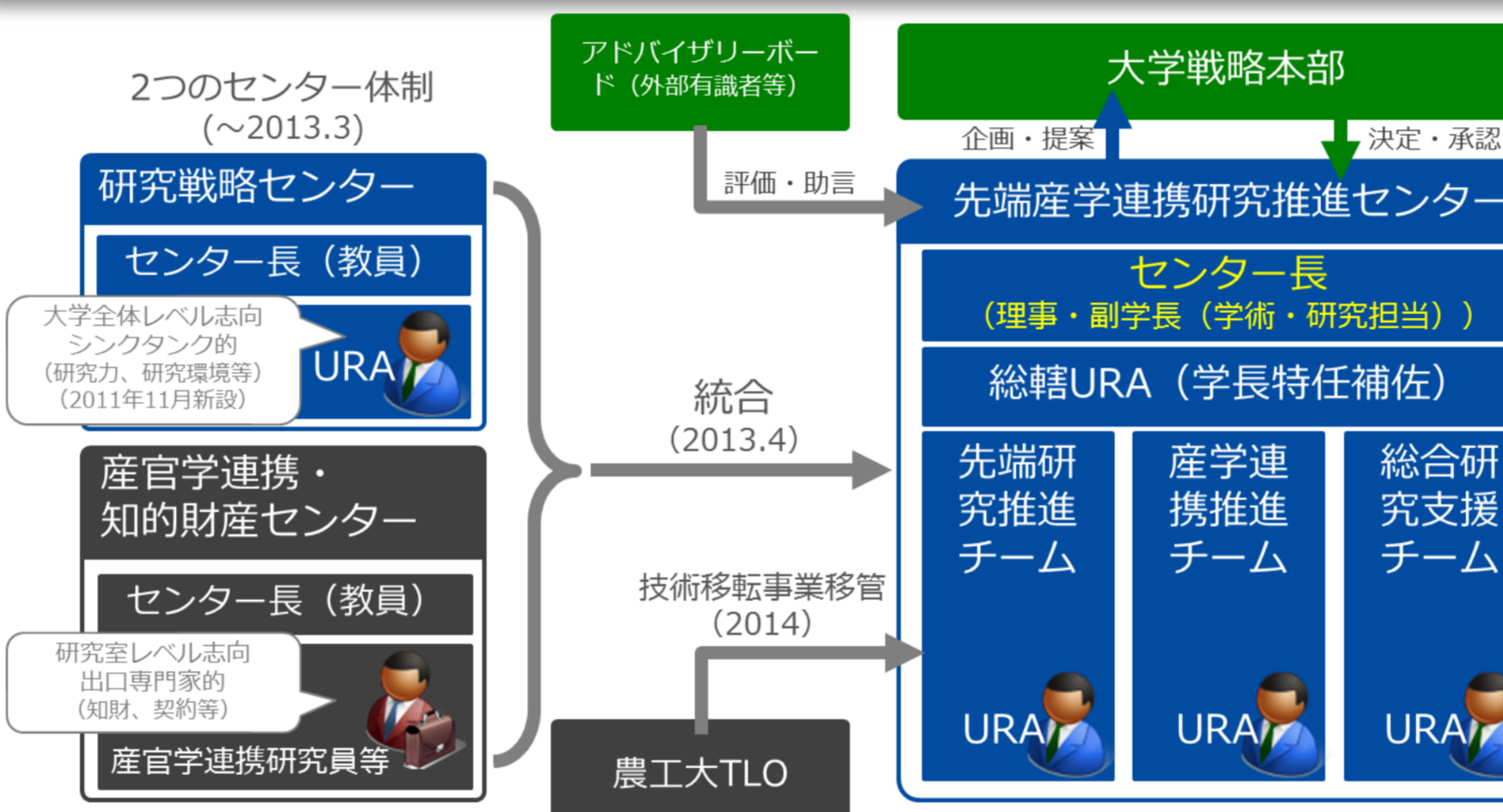


研究力強化のためのURAシステム整備と活動

東京農工大学のURAシステム整備の特長

- 学長のリーダーシップ発揮を支援するシステムの整備
⇒大学研究戦略のシンクタンク機能とそれに基づくプロジェクト提案、若手教員育成支援など
- 研究支援者の長期雇用を可能とする人事システムの整備
⇒学内でステップアップを図れる職階別任期制を当初から導入するとともに、労働契約法改正対応でも長期雇用との当初方針を維持⇒事務組織の活性化にも貢献
- 大学独自のURA能力開発プログラムの整備
⇒産業技術専攻の集中講義として実施(25年度)
⇒26年度に産業技術専攻にURA能力開発プログラムを開講

先端産学連携研究推進センター (URAC)



- 理事・副学長(学術・研究担当)がセンター長となることによるガバナンス強化
- 必要業務すべてをURAが担当
- 外部評価を大学戦略全体の視点も含めて継続(アドバイザーボード)

本学の研究力強化に向けたURAC研究支援

1. URAによる研究環境(広義)の改善・新規整備
 - ① 研究資金の確保
 - ・大規模チーム申請の支援
 - ・科研費獲得の支援 など
 - ② 研究連携体制の充実
 - ・産学連携(萌芽・初動)の支援
 - ・国際連携(萌芽・初動)の支援
 - ・連携研究の場の活性化 など
 - ③ 研究風土の醸成
 - ・学内グラントの運営(学長裁量経費)
 - ・研究広報の活性化 など
 - ④ 研究情報の効果的活用
 - ・大学研究力データベースの整備
 - ・研究成果(論文、知財)の管理・活用 など
2. 文部科学省補助事業の実施
 - URA事業 (URAシステム定着、URA人材育成)
 - 大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業

これまでのURACの活動と成果

- 全学的な大型研究プロジェクトの組織的提案
定量的指標に基づく全学的な研究プロジェクトを立案し、大学戦略本部で決定。このスキームを構築し、組織的に応募準備(本学初)。
- グラント獲得支援
・科研費、A-STEP等。いずれも全学から支援候補者を選定し応募支援
・教員向けの申請書作成講習会を開催
- 教授会等での情報提供
定期的な情報提供を行うとともに、研究環境の改善ニーズを収集。
- 研究連携の初動支援
Webを用いた「研究要素集」の作成(知的財産という権利にならなくても、社会への貢献を探る)。
- 国際共同研究の萌芽、初動支援
・JSPS二国間交流事業の申請支援
・学長裁量経費による国際共同研究促進プロジェクトの運営
- 次世代研究プロジェクト立ち上げ支援
次世代研究プロジェクト立ち上げ支援(学長裁量経費で実施)を運営。支援候補者選定と、外部資金獲得を支援。
- 研究広報の強化
・プレスリリース発信強化
・研究ポータル、研究要素集(Webページ)の作成、研究力紹介映像作成配信
・産学連携イベント(展示会)への組織的出席支援
- 知的財産の管理・活用
平成26年度に農工大TLOから技術移転事業を承継。
- 研究状況の分析等
科研費採択、論文発表、大学ランキング指標等について情報収集、整理、分析し、研究戦略立案の基礎的データとして活用。

今後の活動の展望 特に国際的な展開

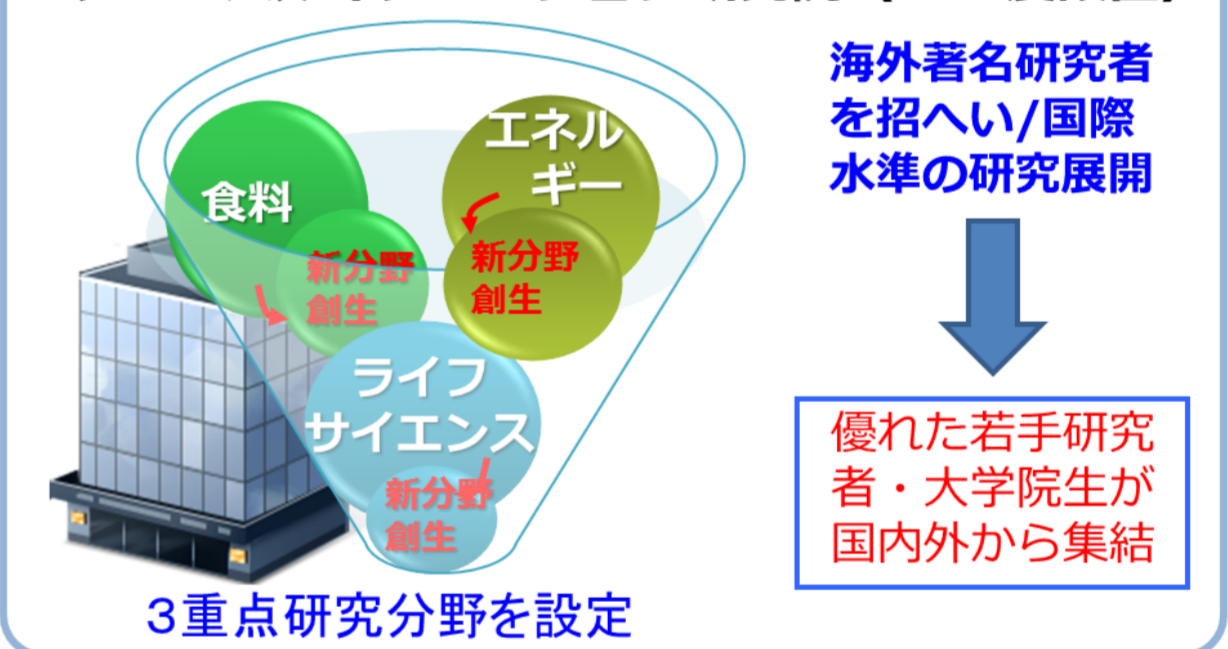
平成26年度/27年度の事業展開

- 社会ニーズとのマッチングを実現する産学連携の推進
農工融合の全学的課題の立上げ追求
新事業分野を切り拓く企業とのマッチング&プロジェクト大型化促進
- URA人材の育成
国際連携活動によるOJT実施
IT専攻におけるURAコース開講と修了生の誕生
中/上級URA育成プログラムの開発(本シンポでセッションを実施)
- 研究支援組織の一体化(研究支援担当の総URA化)
URA業務とCD業務の統合に続き事務組織との一体化を実現する。
- 研究国際協力の推進
特にMORE TUAT 150の核心であるグローバル・イノベーション研究院(28年度発足)準備活動を読んで一層の国際化、研究高度化に貢献する。

グローバルイノベーション研究院構想

- ミッションの再定義に基づき、3重点研究分野を設定
- 再定義
 - 農学・工学ともに、国際社会で指導的な役割を担う高度な専門職業人材、高い研究能力を有する先導的な人材の育成、及び
 - 我が国の産業を支える実践的な研究等の取り組みの一層の推進によるイノベーションの創出

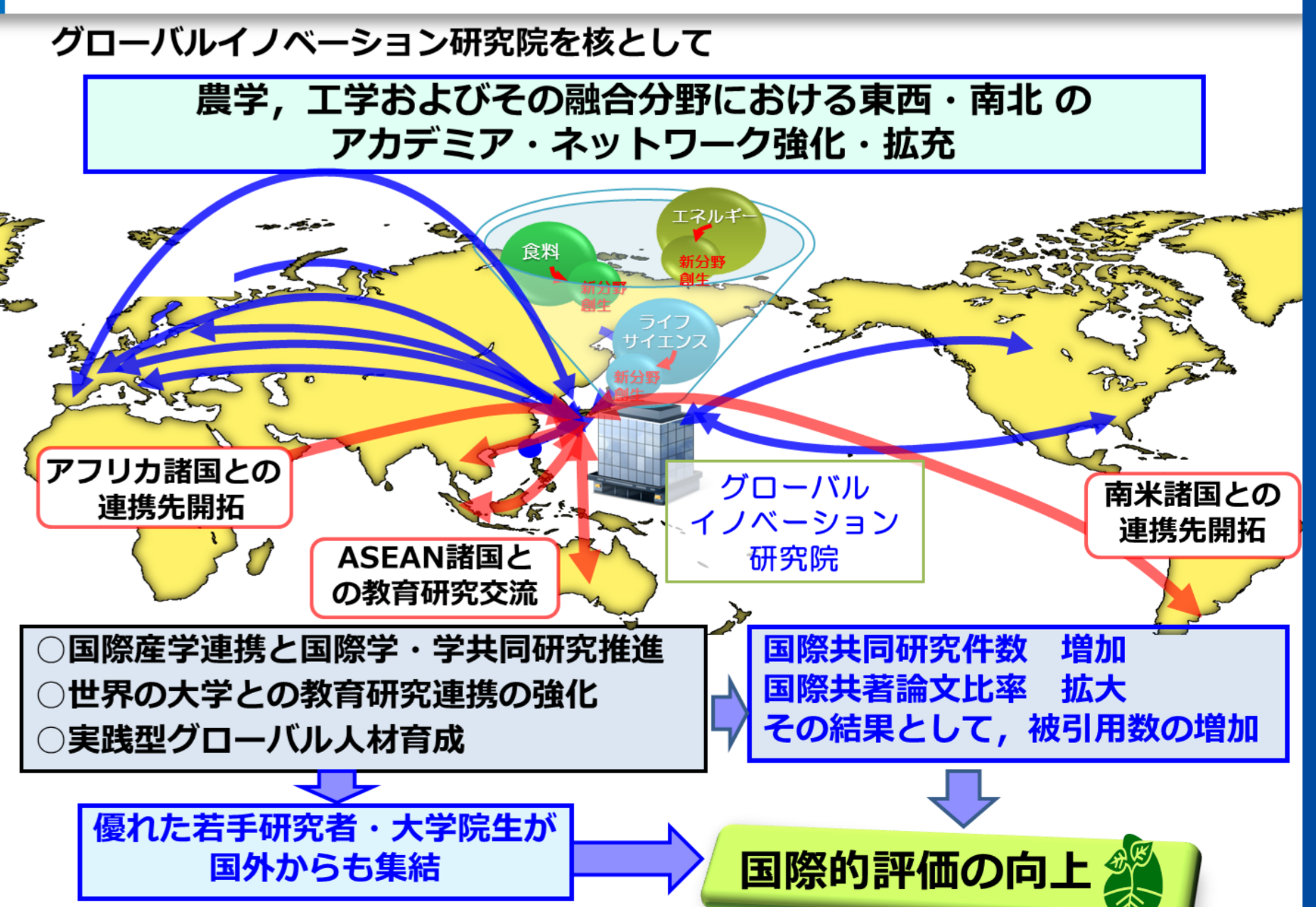
グローバルイノベーション研究院 (H28年度設置)



国際協力の強化拡大 | 世界が認知する研究大学へ

- 国際アカデミア連携共同研究の積極的推進
・国際共著論文の増加
- 海外教員採用によるグローバルイノベーション研究院(GIRI)の28年度発足に向けた活動を支援及び28年度以降の支援構想の策定
- スーパーグローバル大学創成構想の支援活動
・教育高度化と研究力強化の統合的推進構想へ貢献
- 国際産学連携の強化
・外国企業への技術公募へ積極的に対応
・外国企業とのマッチングの積極的促進
- 国際的アウトリーチ活動の強化
・JSPS海外事務所の主催行事へ参加
・研究力DVD(英語版)、研究要素集(英語版)の改善と拡大
・NINSの進めるURA国際化事業に参画(国際的プレスリリースの実現)

国際的評価の向上(世界が認知する研究大学へ)



連絡・お問い合わせ先
国立大学法人東京農工大学
先端産学連携研究推進センター
☎ 042-388-7273
✉ urac@ml.tuat.ac.jp